



日本のリソースマネジメント

第15回部会

議題：防衛管理(第1回), 防衛庁, 太田述正氏

10月15日, 14:00~17:00, 地方自治情報センターで実施, 参加者13名, アンソニーの発想によるリソースマネジメントシステム誕生の経緯と, マネジメント理論としての Strategic Planning, Management Control, Operational Control の三分法を中心に解析し, それを基礎に日本における効率よいマネジメントのあり方を研究した. 副次的に, 最近話題になっている. ZBB(Zero Base Budgeting) の利害得失についても, その本質的事項が浮きぼりにされた. (主査 小島光造)

ダイナミック・オブティミゼーション

10月2日 広島大学工学部 発表 岩本誠一(九大)
動的計画法国際会議に出席して. 4)内容, 4月14日~16日, バンクーバーのブリティッシュコロンビア大学で開催された. 参加者は約70名であった. 6部会の招待論文発表と動的計画法の将来の方向に関するパネルディスカッションが行なわれた. この論文集はアカデミックプレスから出版の予定とのことである.

おもな出席者と発表題目はつぎのとおりである.

D. Bertsekas (イリノイ大) ポレル空間の DP, R. Howard (スタンフォード大) MDP の起源と応用, A. Veinott (スタンフォード大) 多項式的に有界な MDP, E. Darnardo(イエール大)アフィン二次DP, D. Derman (コロンビア大)再帰決定について. (小田中)

消費者行動モデル

●9月例会

テーマ：小売商業競争構造モデルとその評価

発表者：荒川 隆 (流通経済研究所)

内容：小売商業の競争を, 販売店間の競争という次元ではなく, 都市間という次元でとらえた計量経済学的な

モデルが紹介された.

モデル紹介後, 計量経済学的なモデルの有効性と限界が示され, それに関して討論が行なわれた.

ここでの問題点は, 目的にかなった意思決定ができるようにするためには, モデルの“かたち”をどのようにしたらよいかということであったように思われた.

システム・ダイナミックス

●第18回 10月21日(金), 出席21名, 利益管理モデルについて, 渡辺一司(光洋精工)

ID手法による企業モデルの具体例につき報告を受け, 活発な質疑を行なった. モデルは貸借対照表を中心に, 基本的には, 現預金が有形無形の固定資産の購入, 原材料諸経費の支払に当てられ, 製造プロセスを経て製品在庫となり, 販売収益によって再び現預金に流入するというループを詳述したものである. シミュレーションは, ポリシーとして売上原価をできるだけ少なくすることによって利益を追求することを目的としたが, ランの結果では製品の値上げをせざるを得ず, またそのような企業行動がとられたことが報告された.

都市計画と交通

●第6回 10月19日 田畑 彰氏(日立製作所)

“電気車両の省エネルギー化” 出席11名

わが国のエネルギー消費の13%を運輸部門が占めているが, 第2回の上岡氏の報告にもあったように, 輸送機関によってエネルギー効率にかなり差があるし, その利用・運用方法によっても違ってくる. そこで省エネルギーの方策として, ①エネルギー効率の高い輸送法への転換(公共輸送機関の整備, 貨物協同一貫輸送など)②輸送機関のエネルギー効率の向上(適正速度, 広域交通管制, 車両の軽量化, 回生ブレーキ)③省輸送(協同集配送, 通信回線による代替など)がある. 今回は, この②に関するもので, そもそも電気車両による鉄道輸送はエネルギー効率においてすぐれているが, その省エネルギー化を更に進めるため, (1)制御効率の向上, (2)走行抵抗の軽減, (3)運用及び運転方式による節減, (4)ブレーキエネルギーの回生などの方法が行なわれている. これらについて, 電力費39%節減で最近話題のチョッパー制御車を中心に報告が行なわれた.

次回から, 都市のエネルギー消費の動向調べに入ることにした.